

卒業にあたって

生涯教育専攻 4回生 大木 和絵

天理大学に入学してから、気がつけば四年の月日が経ち、もう卒業が目前に迫っています。卒業にあたっての今の気持ちは、なんだか四年前と少し似ているような気がします。

四年前、高校を卒業して、家族や友達とも離れ、新しい生活へ期待と不安を抱え、天理大学へ入学しました。そして今も、四年間暮らしてきたこの土地と、ここで一緒に歩んできた仲間と離れ、新しい生活をスタートさせようとしています。不安な気持ちでいっぱいなのは四年前と同じなのですが、前よりは落ち着いているような気がします。なんでだろうと考えてみても、これといった理由は思い当たりません。でも、四年間の全ての出来事が私を成長させてくれ、四年間で出会った全ての人が私の支えになり、こんな気持ちになっているのだと思います。

そこで、少しずつですがこの四年間で気づいたこと、感謝したいことを振り返ってみようと思います。

大学に入学し、私は一人暮らしをはじめました。私はそれまで、家族と離れて暮らしたことがありませんでした。家に帰れば、出迎えてくれる家族がいて、当たり前のようにご飯ができて、当たり前のように洗濯されてたんである服を着て生活していました。全てが当たり前とっていたので、当たり前のことを、当たり前であるようにしてくれていた家族に感謝の気持ちを持ったことなどありませんでした。しかし、一人暮らしをはじめてからは、私が家に帰っても物音一つしない部屋が待っているだけです。家に帰れば家族が出迎えてくれていた環境に慣れていた私は、静かな部屋がなじみず、帰ればとりあえずTVをつけるのが習慣になってきました。そこではじめて、家族の温もり、感謝しなければならなかった多くのことに気がきました。そして、離れて暮らしている今も、多くのことで気にかけてくれ、支えてもらって、生活しています。四年間、たくさん心配や迷惑をかけたけど、温かく見守ってくれた家族には感謝しても感謝しきれません。これから社会人になり、少しでも早く、今度は私が家族の支えになれるようにがんばりたいです。

大学生活にも慣れてきた頃、三矢会の行事に参加するようになりました。色々な行事があったけど、一番印象に残っているのは、三回生のときの大学祭です。私は、模擬店をしました。何度も試食会をひらいてメニューを決め、空き缶を数百本集め看板を作り、様々なトラブルが何度も発生しました。大学祭期間中も、仕込などで、三日間で10時間くらいしか睡眠がとれないくらいみんな必死にがんばりました。結果は満足なものではなかったけど、ひとつの事をみんなでやり遂げたことの達成感はずごく大きなものでした。専攻という枠を飛び越え、多くの人と関わり、ひとつの事をやり遂げる難しさや、それがどんなにいい経験になるのかということに気がついた行事でした。

また、大学という枠を出たところでも、多くの経験をさせてもらいました。その中で一番私に影響を与えてくれたのはバイトだと思います。私は居酒屋で、四年間バイトをしていました。そこでは、大学では知り合うことのできなかつたろう、年の離れた人や、仕事をしている人と話す機会があり、私の視野を広げることができたと思います。また、接客の仕方や、気の配り方なども先輩から教えていただきました。そしてなにより、みんなが家族のように接してくれ、私を支えてくれました。みんな真剣に相談に乗ってくれたり、一緒笑ったり、泣いたり、第二の故郷のように感じるくらいでした。たくさんの愛情で支えてもらい、感謝しています。

そして私が大学生生活を振り返って、一番思い出と一緒につくってきた人達は、やっぱり生涯教育のみんなです。生涯合宿やソフトボール大会、毎年みんなで行ったキャンプは、楽しくて仕方なかったです。卒業論文も愚痴を言いながらも、書き上げることができたのはみんなで励ましあったからだと思います。特に、いつも一緒にいてくれた子達には、たくさんわがままや、心配、迷惑をかけたのに、その度にいつも真剣に考えてくれて、私の大きな支えになってくれました。苦しいこと楽しいことを一緒に経験できたことが、すごくかけがえのないものになりました。四年前は一人だったけど、今は多くの仲間がいるということが、なによりも大切なものです。みんな離れ離れになるけど、一生涯の仲間でありたいと思っています。四年間本当にありがとう!これからもよろしくお願いします。

大学生活の四年間で私が手に入れることのできた経験や思い出、仲間や人間関係は、これからの私の生涯でかけがえのない財産になりました。これらのことを糧にこれからまた、新しいスタートをきろうと思います。